

江戸歴史講座第37回 出光美術館「勝川春章と肉筆美人画展」開催記念
日常のなかの非日常—浮世絵師・勝川春章が描こうとしたもの



美人鑑賞図 勝川春章 江戸時代 出光美術館

今年、生誕290年を迎えた江戸時代中期の浮世絵師・勝川春章。2月20日（土）より出光美術館で開催される「勝川春章と肉筆美人画—〈みやび〉の女性像」展を記念して関連講座を行います。すでに役者絵版画で不動の人気を得ていた春章は、50歳頃から67歳で世を去るまで、肉筆の美人画に旺盛な筆をふるいました。春章の美人画は、日常的で現実的なテーマをとらえながらも、そこに優美な趣をにじませるところに大きな特徴があります。今回は、同時代の浮世絵師や注文者との関係を視野に入れつつ、春章が目指した女性表現の理想を考えます。

講師 廣海 伸彦（ひろみ のぶひこ）

1980年、神奈川県生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士前期課程修了。専門は日本美術史。展覧会「土佐光吉没後400年記念 源氏絵と伊勢絵—描かれた恋物語」（出光美術館、2013年）などを企画。著書では『岩佐又兵衛全集』（共著、藝華書院、2013年）などを発表。

開催概要

- 日時：2016年3月3日（木）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順。定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください）
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。